

大館の歴史散歩

戊辰戦跡を
歩く ③

十二所口の戦闘

慶応四年八月九日未明、鹿角郡にかねてから集結していた南部軍は、十二所口への進撃を開始した。総大将榎山佐渡率いる五百五十余名の本隊は、花輪から尾去沢十文字峠を越えて土深井、本街道へと進み、さらに二百余名の遊撃隊を石亀左司馬が率い、三ツ矢沢から別所へと向った。一方、毛馬内からは向井蔵人、桜庭祐橋が六百余名を率い、米代川北岸沿いに葛原へ進攻した。十二所守将茂木筑後は、以前から南部領内の動きを探索しており、七月二十九日には、南部藩が秋田領内へ進撃する手筈を整えていることを突き止めている。



激戦のあった三階橋付近

た。そのため連日のように本藩へ切迫した状況を報告し応援を求めたが、家老須田政三郎及び大館の根本源三郎隊が到着したのは、戦闘前日の八月八日のことであった。このとき、十二所側の総兵力は三百名にも満たず、南部軍が多数の大砲や新式銃で装備されていたのにひきかえ、火器は大砲三門と旧式銃百三十挺だけであった。九日早朝、十二所勢は三哲山頂上の物見から、南部の大軍がすでに沢尻付近にて攻め寄ろうとしている旨の報告を受け、本陣を郷校成章書院と定めた。本街道沢尻から十二所正面までを塩谷彦五郎・岡本大内蔵・菊地数之助、葛原には石井助右衛門、別所には沢尻市之丞の諸隊が急ぎ布陣した。戦闘は、午前八時ごろ本街道筋から開始され、南部軍榎山本隊は沢尻の第一線をたちまち突破。圧倒的な南部軍の攻勢に総崩れとなりながらも、十二所勢は十二所入口三階橋で必死の抵抗を凶った。しかし、南部軍は本街道正面から榎山本隊が数百挺の鉄砲を撃ち込み、

米代川北岸から向井・桜庭の銃隊、十二所南の山手から石亀隊と、三面からの攻撃で三階橋を突破し、十二所へ突入した。戦闘わずか一時間余りして十二所勢は総軍退却を余儀なくされ、途中の大滝温泉に火を放ち一挙に岩瀬まで退いた。

この戦闘で十二所は、茂木氏居館、成章書院、神社仏閣、住家合わせて約四百戸を焼失し、わずかに数戸を残すのみであったという。

「十二所のふるさとの山」三哲山からは、十二所口の戦跡を一望することができる。三哲山の頂に立ち、大館における戊辰戦の緒戦であったこの戦闘に思いを巡らすと、多数の大砲を連ね、手に手に新式銃を携えて、大小

の旗を押し立てながら進む南部軍が、そして不意を突かれて騒然とする十二所の町、米やみそ、鍋・釜だけを抱えて逃げ惑う民衆の姿が、脳裏に浮かぶ。

市役所史跡探訪会



十二所討入、三階橋破る

(栗山文一郎氏作による『田中北嶺筆戊辰戦役絵日記』から)

《戊辰戦関係要図》



私の本棚

中央図書館新着図書

『インド鉄道紀行』

宮腰俊三著 角川書店

世界各国鉄道の旅を続ける著者が、ラジダーニ特急・ウディヤン急行を乗り継いでデカン高原を縦断し、インド最南端まで。アジア鉄道発祥の地インドの悠久な大地を旅する鉄道紀行。



一般書

◇デンマークに学ぶ豊かな老後(岡本祐三) ◇玲子さんのアイデアマーケット(西村玲子) ◇山の暮れに〔上・下〕(水上勉) ◇きのね〔上・下〕(宮尾登美子) ◇酒屋へ三里豆腐屋へ二里(安岡章太郎) ◇子どもに教えられる(吉岡たすく) ほか

児童書

◇なにをしているかわかる?(ユネスコ・アジア文化センター) ◇あのことをさがす旅(紀和鏡) ◇ミクロの恐竜学(福田芳生) ほか

6月のテーマ関連図書コーナー

『利休四百年忌』

親子読み聞かせ会

毎月第1金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日

6月17日、28日、7月15日